

骨髓バンク 2005年1月 会報 27号

会報発行：骨髓バンクを支援するいばらきの会 <http://ibaraki.marowjp.net/>

発行責任者：牛島英二 編集：小田倉孝夫・山崎揚久

<事務局> 〒311-1415 茨城県鹿島郡旭村造谷605くるみ屋内

TEL：090-8306-7111 / FAX：0291-37-1425 / E-mail：yamazaki@kurumiya.com

新年のごあいさつ

会長 牛島英二

会員の皆さん、新年おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
昨年の骨髓バンクは、11月にドナー登録者20万人・移植6000例到達など着実な前進を印象付ける出来事がありました。

茨城県を始め、全国のドナー登録者の方々に心から感謝申し上げます。

しかし、それでも昨年登録しながら移植を受けられていない国内の患者さんは約4割にもなります。移植を受けられず亡くなっていく患者さんがまだまだ多くいらっしゃる現実を思うと誠に心が痛みます。一人でも多くの患者さんに移植の機会を提供するには、目標ドナー登録者数30万人の達成を1日も早く実現しなければなりません。一方、今年度の県内登録数は県や血液センターのご尽力と会員の皆さんのご努力により昨年度を上回るペースで増加していますが、登録率全国順位は未だに最下位グループを脱するまでには至っておりません。私たちが登録会場やイベント会場で配布する県のパンフレットの配布効果などで、保健所や献血ルームでの登録数も増加傾向にあり、登録意思をお持ちでありながら登録に至らない潜在登録者が県内にはまだまだ多数いらっしゃるものと推測されます。登録会場でのアンケート結果を見てもそのことが裏付けられています。こうした登録者予備軍とも言える方々を登録に結びつけるためにも、献血併行型登録会の重要性は今後も変わりません。

来年度も今年度並みの登録会計画が県業務課で立案実施されるものと思われま

す。同計画を確実に実施するためには、会員の皆さんのお力添え・ご努力が欠かせません。献血併行型登録会方式の実施は全国のボランティア団体と参加するボランティアの方々の血のにじむ努力があり、こうした活動はボランティアの領域をはるかに越えているのも事実です。全国のボランティアからは出口の見えない活動継続に対する疲弊感と、ボランティアに頼る現行登録会システムへの疑問・不満の声が日増しに大きくなって来ています。

しかしながら一方では待った無しの状況に置かれた患者さんが全国に多数いらっしゃる現状と、私たちの努力が患者さんの利益に直結することを思えば、全ての登録会が行政や日赤のみで実施される日が来るまで、今後も活動を継続していかねばなりません。

骨髓バンク事業が献血事業と同程度に社会的に認知されるまで、私たちボランティア団体の活動ぶりを広く一般社会に見ていただき、その重要性を訴え続けていきたいと考えます。皆様のご理解ご支援と登録会へのご協力をお願いいたします。

私たちボランティアに義務という言葉は似つかわしくありません。当会モットーである「気負わず、あせらず、できることから、楽しく」の「楽しく」を常に念頭に活動していきましょう。

ドナー登録者30万人をめざして！

新年のごあいさつ

顧問 井手よしひろ

いばらきの会の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

いばらきの会の顧問を拝命しました茨城県議会議員の井手よしひろです。

昨年は、白血病などの移植治療にとっては大きな節目の一年となりました。11月には、骨髄バンクの登録者が全国で20万人を突破し、さい帯血バンクの保存血液も2万件を超えました。骨髄移植の実績は6000例、さい帯血移植は2000例を超え、ここ十数年で多くの尊い命が救われたこととなります。これもひとえに、いばらきの会の皆さまを始めとする、多くのボランティアの方々の献身的なご努力のたまものです。しかし、まだまだ病床には、移植を待つ多くの患者さんがいると伺っています。私も県民の一人として、微々たる力ですが、できることからお手伝いをしていきたいと思っています。「気負わず あせらず できることから 楽しく」がいばらきの会のモットーです。私は、このモットーが大好きです。そして、そのことばに「行動」の二文字を付けて、自分自身に言い聞かせています。気負わず「行動」、あせらず「行動」、できることから「行動」、楽しく「行動」と。この新しい一年が、皆さまにとって素晴らしい一年であることをご祈念いたします。

謹 賀 新 年

財団法人 骨髄移植推進財団
理事長 高久 史 磨

新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

さて、骨髄バンク事業は開始から13年を経過し、昨年末現在、ドナー登録者数は20万人、骨髄移植数は年間800例、累計移植数も6100例に達しております。

これもひとえに、全国各地のボランティアの皆様、日本赤十字社、医療、行政関係者の皆様のご尽力の賜物であり、心から感謝と敬意を表します。

私どもはより決意を新たに、ドナー登録30万人の達成に向けて関係者との連携を深めて、普及広報とドナー登録推進を図るとともに、ひとりでも多くの患者さんに移植のチャンスが得られますよう、コーディネートの迅速化と業務改革に取り組んでまいります。今後とも、国際協力の推進に努めるとともに、ドナー安全対策は骨髄バンクの使命として、一層の強化を図ってまいります。

皆様の益々のご発展とご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



1月22日より東京、神奈川、福井、滋賀を皮切りに、映画「火火」が公開されます。是非ご覧下さい。

ドナー登録者30万人をめざして！

2005年1月 会報27号

県立こども病院へのX'masプレゼント

今年もやりました。クリスマスプレゼント！

12月5日、今年もこども病院へクリスマスプレゼントとペンシルバルーンを届けに行きまして。前日の強風で天気が心配されましたが異常気象のお陰(！?)で冬の夏日と言うある意味予期せぬ出来事でよい天気に恵まれました。今年は例年の伊井さんのトナカイにプラス初めて参加者全員がサンタさんの衣装を着ての参加になりました。今年も例年通り突然のサンタ軍団に驚き泣き出す子供たちが数名いましたがどうにかこうにか無事終了することができました。いつも思うのですが、子供たちもすることながら、プレゼントを受け取っていただける時のお父さん、お母さんの笑顔、周りの看護師さん



女の子サンタさんが
んばりました。



いばらきの愉快的なサンタの仲間たち



両手に花の！？トナカイさん

の笑顔を見ると「今年も訪問する事ができて良かった」と思います。僕自身は常日頃健康状態のため何も感じませんが年1回の子供病院を訪問するたびに心を痛めます。「この子供たちのためにもがんばらないといけない！」と思う瞬間でもあります。自分自身のボラ活動の原点はここにあるのかもしれませんが。子供たちに少しでも多くの夢や希望があげられたことと思っております。プレゼントしたお絵か

きセットで楽しい「夢や希望」を描き上げてください。

参加された方々：井手さん、川井さん、伊井さん、細谷さん、植村さん、和田さん、湯本さん、山崎さん小田倉でした。なお、今回プレゼントしました商品に関しましてはイオン(株)ジャスコ日立店様、笠間店様、つくば店様、下妻店様の『イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン』助成金のご協力を頂きました。関係者の皆様に感謝を申し上げます。(小田倉孝夫)

今年も残念ながら参加できなかった牛島会長の一言

このイベントは、バルーン募金でいただいた県民の皆様のご芳志や、イエローレシートキャンペーンでいただいたイオングループのご厚意を社会にわずかながら還元させていただく、という趣旨であり病院側のご理解ご協力がいただける限り、今後も継続していきたいと考えております。病と闘う小さな子供たちの生の姿を目の当たりにすることは誠に辛いものがありますが、辛い闘病生活を送る子供たちにほんのわずかの時間ながら楽しい思い出を共有してもらえたらと願うばかりです。中には泣き出す子もいますが、バルーンができていって行く様を見る子供たちの輝く眼差しが私たちへの最大のプレゼントです。

ドナー登録者30万人をめざして！

10月9日 舞台「友情」東海村公演

アメリカでの実話を基に白血病になった少女と周りの友達との“友情”を描いた舞台公演が東海村にて行われました。舞台製作会社のドラマステーションの関係者に聞いたところ地元の方が昨年の水戸公演を観ており是非東海村で実施したいとの要望で実現したもので、昨年のうちに公演の予定が決まっていたそうです。当日は台風の影響で大変な悪天候の為、入場者が来るかどうか心配されましたが数百名の入場者がありました。地元茨城出身の舞台出演者もいた為ご両親やお友達もたくさん来られていたようです。舞台中も風で会館の屋根が揺れるような状況でしたが感動の中、無事終了することができました。舞台終演後、当会の湯本さんと和田さんが堂々とした舞台挨拶をされ、多くの方々からの拍手を受けておりました。あいにくの天気の中、観劇された多くのお客様に大きなアピールとなったことでしょうか。是非来年も茨城での公演が実現されることを望むと共に、多くの皆様、特に学生の方々に見てもらえればと思います。

当会からの参加者は、川井さん、伊井さん、山崎さん夫妻、佐藤（恵）さん、細谷（栄）さん、和田ママ、和田お兄ちゃん、和美ちゃん、湯本さん、植村さん、小田倉でした。

1999年より始まったこの舞台『友情』公演は開演以来毎年公演を続けています。今年で6年目となった同舞台公演は9月19日の横浜にぎわい座で上演回数300回を迎えました。また来年2月には日韓文化交流事業の一環で韓国公演が実現することになっております。もちろん韓国語での公演になるために舞台関係者は日本語一切禁止の過酷な合宿をして臨むそうであります。私が交流させていただいております舞台監督の相原一夫さんより当会HPの掲示板に投稿がありました。

～メッセージ～

今回も「友情」の舞台を後援していただきありがとうございました。舞台監督の相原です。少しでも、ドナー登録者のかたが増えるよう、私たちも努力していきますので、よろしく願いいたします。それにしても、東海村の公演は台風の中、すごかったです。この間の23号も神戸で体験してきましたが、一度東海村で予行練習しておいたので、（笑い）慌てませんでした。関係者の方々、本当にありがとうございました。（小田倉孝夫）

10月17日新極真会による「骨髄バンクチャリティー 第5回 茨城北支部 交流会」開催される

本日、常陸太田市市民武道館において、新極真会による「骨髄バンクチャリティー第5回 茨城北支部 交流会」が開催され川井さん・瀧でPR参加してきました。13時開会式において、新極真会より3万円を贈呈していただきました事を皆様にご報告いたします。交流会と言っても、県内はじめ遠く千葉県から参加の小学生もおり会場は大変賑やかでした。試合開始後から徐々にバルーンを気にする子供達がふえ以後、長蛇の列、終了予定5時少し前には既に疲れてしまった私達は「本日終了だよーん！」と片付けてしまいました。今回は、武道をおこなっている子供達だけあって殆んど注文は、剣ばかりでした。さすが豆武道家です。ただひとつ、少しご迷惑をおかけしてしまったのかなァーと思った点があります。試合終了まで暇な子供達は、試合会場内にバルーンを持ち込んだ為試合中の場内で、風船が割れたりしておりました。大内支部長には「ご迷惑だった様に感じております、すみませんでした」とお伝えしましたが正直、どう思われた事かと……。近々、お礼もかねてお手紙を出そうと思っております。11月27・28日には、東京体育館において「骨髄バンクチャリティー、第36回オープントーナメント 全日本空手道選手権大会」が開催されると言う事です。後援には、もちろん財団も明記されておりますが、テレビ朝日とか東京FMとも記載されておりますので放映されるのかなーと思います。みなさん日本の心を持った方達ばかりでした。川井さんお疲れ様でした。（瀧公恵）

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

11月14日 玉里村産業祭でのペンシルバルーン募金

本日行われました玉里村産業祭でのバルーン募金の結果をご報告します。

募金額 23,179円

ご寄付 玉里村商工会 10,000円

〃 長谷川さつきさん 10,000円

参加者：福間さん、川井さん、植村千絵美さん、長谷川さつきさん、伊井、それと石岡JCの関川さんでした。

朝からあいにくの雨で、人出が心配されましたが、設営時にはかろうじて雨もやんできました。開始と同時に子供たちがやってきてきましたが、長蛇の列になるようなことはなく、そこそこの忙しさで助かりました。でも、寒さには降参です。手がかじかんで思うように動かなくなることもあって、長谷川さんが持ち込んでくれたストーブが有難かったです。それにしても、今日のMVP候補はチーちゃんと長谷川さんかな。チーちゃんはバルーンが上手になりましたよ。話術ももうベテランの域です。いつの間に・・・って感じです。長谷川さんは地元でもあり、当たり前ですがかなり知り合いが多くそういう意味でも、募金活動に大きな影響があったかと思います。また、バルーンも非常に難しいものまでできるので、今度の石岡にも来てくれたら大きな戦力になります。でもやっぱりMVPは、全員ですね。川井さんも福間さんも寒い中本当に頑張っておられました。そんなこんな朝9時から午後2時半ころまでの短い時間で、募金額が2万円を超えたと言うことは、とっても素晴らしいことだと思います。参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。（伊井義人）



11月28日「石岡ふるさとフェスタ2004」でのバルーン募金結果

本日行われました「石岡ふるさとフェスタ2004」でのバルーン募金結果をご報告します。

な、な、なんと 40,995円もの募金をいただきました。正味、5時間ほどでこれだけ集まるのは・・・驚きです。それも、体育館の中というあまり目立たない場所（メインステージやら、特産品売り場などはグラウンド）でありながら、これだけの結果というのは、まさに石岡JCメンバーの皆さんの多大なるご協力の賜と感謝しております。途中、2回ほどJCの信田さんが募金箱をもって会場を回って下さいました。JCメンバーに募金をお願いして下さいました（なかば強制的に？）。信田さんが帰ってくるとなんと千円札がドッサリ。もう感謝感謝です。外は結構日差しが強かったようですが、その点では室内で助かりました。9時から3時までといっても、2時半頃にはもう子供たちの姿はまばら。他のブースも片づけが着々と進んでおり、いつものごとく我々が最後。後れを取らないよう早々片づけを行いました。

本日の参加者は、牛島さん、和田さん、湯本さん、植村さん、小田倉さん、細谷さん一家、長谷川さん（玉里）、伊井親子 でした。参加された皆さん、お疲れ様でした。



ドナー登録者30万人をめざして！

新館中公開授業参加レポート ～テーマ「強い意志をもった決断」～

去る10月22日(金)利根町立新館中学校で開催された研究発表会(利根町教育委員会等主催)公開授業に、同校からの要請を受けてドナー経験者として参加してきました。中学の公開授業でドナー経験者?ってちょっと不思議な感じがしますよね。それもこれも3年1組の担任である加々美先生が道徳学習で「強い意志をもった決断」というテーマで、骨髄バンクを題材に取り上げて下さったからです。私は最後の5分間に体験談を語るということで参加したわけですが、途中、登録の仕方に関する質問やグループ討議時に個別に質問を受けたりなど、私も結構楽しめました。授業は、私が想像したより事前学習が結構進んでまして、なぜ骨髄バンクが必要なのか、といった基本的なことは既に終わっており、実際にドナーとして提供して欲しいと言われたらどうするか。ということが主でした。みんなの意見は、ドナーを受けるかどうかというところで決断をするというよりは、ドナー登録をしようかどうかでの決断の方が重要だ。という意見が大勢を占めたように感じました。要するに登録した以上は、ドナー適合の話が来れば受けるということです。頼もしい限りです。中学で、ここまで骨髄バンクのことについて勉強してもらえるなんて、本当に感謝です。きっと新館中3年1組のみんなは、一般の大人の方よりも詳しくなっただしょう。教室の後方には、教育委員会のお偉いさんとおぼしき方々(失礼)や、他校の先生方が見学されておりました。こういった授業が、他の学校にも波及していくと大変喜ばしいことですが……。また、声がかかるのを楽しみに待ってます。廊下には「決断 命の一滴」のコミック版が抜粋で張ってあったり、授業で使用する資料は大きくして黒板に貼れるよう工夫したり、加々美先生の力の入れようがヒシヒシと伝わってきました。加々美先生ありがとう。そして3年1組のみんな、20才になったらよろしくね。(伊井義人)

10月23日取手市健康福祉祭り

取手市健康福祉祭りに今年も元気一杯参加できました。昨年までは牛島会長や山崎さんに応援していただき気楽でしたが牛島会長、山崎さんが他の行事と重なり取手支部だけの参加となりました。朝9時半スタート。メンバーも最初は緊張しておりましたが初参加の聖徳大学附属高校3年の横田結花さんや毎年参加している寺原小5年の稲葉直美さん、取手2中3年の貫井和夫が一生懸命ドナー登録を訴え多くの市民が笑顔と励ましエールを贈ってくれました。午後3時前に約1000個のキティちゃんティッシュと登録推進パンフも完配しました。参加した7人のメンバーは心地よい充実感、達成感とともに今後のさらなる活動を決意し家路につきました。ありがとうございました。(貫井徹)

参加者 稲葉洋子、稲葉直美、横田善吉、横田結花、貫井和夫 貫井由美子 貫井徹



ドナー登録者30万人をめざして!

10月13日 協和町民総合センター献血並行登録会

13日に行いました協和町民総合センターでの登録会の結果報告です。

登録者数 8名 献血者数 64名(受付78名)

当日は小雨の降る中での登録会となりました。献血者数も通常よりも大幅に少ない人数となり苦戦を強いられました。しかし保健所の山内さんや保健センターの大木さんたちにより町内への回覧による告知やポスターの掲示など広報活動に力をさせて頂きましたので、8名の方にご登録頂くことが出来ました。本当にありがとうございました。(細谷栄一)

参加者 下館保健所 2名 水戸献血ルーム登録推進員 1名(佐藤恵子)

いばらきの会 川井さん、細谷(栄)

10月14日 日立ハイテクノロジーズ献血並行登録会

登録者数 18名(内1名事前説明扱い)(受付 22名)

献血者数 159名(受付185名)

なんと10名の方の事前の予約を戴いて望んだ日立ハイテク登録会でした。屋外の献血&登録会でしたので天気による影響が心配でしたが何とか持ち堪え18名の方にご登録戴くことが出来ました。ひたちなか保健所の石川さんには日立ハイテク総務部に何度も足を運んで頂き、社内告知や事前予約の確保の為に尽力いただきました。本当にありがとうございました。(細谷栄一)

参加者 ひたちなか保健所 2名 水戸献血ルーム登録推進員 1名(佐藤恵子)

いばらきの会 山崎(揚)、細谷(栄)

11月19日 茨城県骨髓バンク登録推進員研修会

平成16年度、下期における登録推進員研修会が日本赤十字茨城県支部にて開催されました。

まず、杉山さんから骨髓バンク推進員事業、ドナー登録状況などの説明。私から骨髓バンクの簡単な説明をし、登録用ビデオ上映、説明員研修、上期つくばルームにて登録推進員だった福間さんが推進員の行動について詳しく説明されました。短い時間の中ですべてを実践にいかすのは難しいでしょうが皆さん真剣に研修を受けられていましたので、献血ルームや登録会などで頑張ってくれると思います。各登録会では推進員が参加される予定です。分からないことがありましたら教えてください。(山崎揚久)

参加者 県内各献血ルームや血液センターの推進員6名 血液センター水戸出張所所長、路川さん 日本赤十字社茨城県支部、経営課経営係長、大内さん 県薬務課、杉山さん

当会からの参加者 福間さん、細谷さん、山崎(揚)以上は講師。

佐藤(恵)さんは水戸献血ルーム推進員として参加されました。

牛島会長地元神奈川県内学園祭でペンシルバルーンチャリティー募金で奮闘

神奈川でこの秋に実施された学園祭イベントで、私が一人で孤軍奮闘実施した「いばらきの会を支援するバルーン募金」は合計3回でナント24,444円となりました。パチパチパチ。(^^)特に11/23は快晴のぽかぽか陽気に恵まれ、終日大行列ができて、昼食や泡の出る液体を取る暇も全く取れないほどの正に目の廻る忙しさでした。ものすごく疲れましたが、精神的にはとても充実した一日でした。多分30分以上の待ち時間にも拘わらず辛抱強く並んでいただいた子供たちとその親御さんにはもう感謝・感謝です。その日だけで12,000円を越す収益が出ました。お陰でその夜は熱が出て、早々のお休みとなりました。来年は体調を整えて再トライするつもりです。(牛島英二)

ドナー登録者30万人をめざして!

11月19日 鹿嶋市役所献血並行登録会

天候不順のためか、献血者数も少なく低調な結果に終わりました。

登録数：5名

献血数：55名

参加者：2名、牛島

潮来保健所衛生課 高城様（ご本人自らご登録いただきました。感謝！）

11月29日 日立電線高砂工場献血並行登録会

ドナー登録者 18名 / 受付19名（1名は血圧条件で不適合）

献血数 59名 / 受付78名

受付時間：9時30分～15時（予定通り）

保健所による水戸センターへの検体搬送数：1本

説明員：瀧さん（いばらきの会）、磯貝さん（前日立ルーム推進員）

推進員：渡邊さん（日立ルーム）

保健所：斎藤さん、海老名さん

今回は高砂工場の総務グループ坂本様に変好意的かつ積極的に対応いただきました。坂本様には今回のドナー登録者の応諾率が大変高い実績を踏まえて、ぜひ来年度も同様のお取組みをお願いしたい旨をお伝えいたしました。（牛島英二）

12月22日 日本原子力研究所東海研究所献血並行登録会

ドナー登録者 12名

献血者数 128名 / 受付145名

参加者 ひたちなか保健所 石川様 上松様

登録推進員 佐藤恵子さん（水戸ルーム）

いばらきの会 川井正一さん

昨年度の東海研究所での39名には遠く及びませんでした。

しかしながら、20日の月曜日にひたちなか保健所の石川さんたちによって事前のチラシ配りを実施していただきました。なんと300枚のチラシを配っていただいたそうです。

当日の登録者数こそそれほど多くはありませんでしたが、事業所内の広報の効果はあったのではないのでしょうか？本当にありがとうございました。（細谷栄一）

コーヒーブレイク

その昔、徳島市で家庭教師をしている若き青年がおりました。教え子の名は「太郎君」と言いました。太郎君は良い成績をあげ一番になることを夢に描いていたそうです。

その為、懸命に勉強をしておりましたが、元々悪かった心臓病が悪化し高校受験を受ける前に亡くなってしまいました。

その後、その青年は地元の徳島市で事業を興しワープロソフト「一太郎」を開発し販売を始めました。その青年がジャストシステム社の浮川社長です。商標登録名の関係で「太郎」にはできませんでしたが、太郎君のやり残した夢を叶える意味もこめて名づけたそうです。

浮川社長は「太郎君は心臓が悪かったけど、懸命に生きていた。私が会社を興したばかりのころ、亡くなってしまいました…。やり残したことがいっぱいあったと思う太郎君の「夢」を少しでも受け継げれば、と願っています。」と語っています。

我々も色々な夢を叶えてあげられる支えでありたいものですね。

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

筑波大学附属病院に於いて治療困難な骨髄移植後の 再発白血病に対する遺伝子治療が実施される

筑波大学附属病院（山口巖病院長）は、昨年10月に厚生労働省と文部科学省より承認を得た再発白血病に対する遺伝子治療臨床研究を11月2日に実施しました。

今回の遺伝子治療は、骨髄移植後の再発白血病に対して行われる骨髄供与者からのリンパ球の投与が、時に白血病細胞のみならず患者の健康な細胞までも攻撃することから、あらかじめ投与するリンパ球にレトロウイルスベクターを用いて自爆装置を組み込み、患者に投与するものです。これにより、重い副作用が発症した場合、特定の薬を投与することで自爆装置にスイッチが入り、リンパ球を死滅させ、重い副作用を沈静化させることができます。今回の遺伝子治療により安全弁付きのリンパ球を用意できることから、今までより多くのリンパ球を投与することができ、現在、治療が困難な白血病に対しても治療効果が期待できます。また、安全な移植も可能となることからドナー不在の白血病患者に対しても移植医療を行うことができるようになります。白血病に対する遺伝子治療は国内で初めてで行われたものです。（新聞記事より抜粋）

再発白血病に対する遺伝子治療が目指すもの

医学の進歩により、白血病の治療成績が向上した今日でも、骨髄移植や末梢血幹細胞移植などの造血幹細胞移植後に白血病が再発した場合には、治療はきわめて困難です。

とくに抗白血病薬による完治は、難しい状況にあります。そのような白血病の患者様に対する治療法として、現在我々が最も期待しているのは、造血幹細胞移植のドナーのリンパ球を点滴によって体内に輸注する、リンパ球輸注療法という免疫療法であります。

実際に多くの白血病治療センターでは、このリンパ球輸注療法が実施されていますが、この治療法には重大な副作用の危険性があります。すなわち、輸注したリンパ球が白血病細胞のみならず、患者様ご自身の身体を攻撃してしまう移植片対宿主病（GVHD）の発症であります。重症GVHDの治療はとても困難で、白血病治療に成功してもGVHDで命を落とされる患者様が多くおられます。幸い、このGVHDに対する画期的な遺伝子治療が1997年に欧米で開始されました。この治療では、輸注するリンパ球にあらかじめ特定の遺伝子を入れておきます。重症のGVHDが発症した場合には、ガンシクロビルという抗ウイルス剤を患者様に注射して、輸注したリンパ球だけを破壊することによりGVHDを完治させるという治療方法です。したがって、この治療法では患者様ご自身の細胞にはほとんど影響がありません。欧米ではこの治療法の効果はほぼ確立されてきました。しかし、日本では準備に時間がかかっていたためこの治療が実施できず、患者様にはとても気の毒な状態であると私たちは日々実感してきました。このような状況の中で私たちは、再発白血病に対する遺伝子治療の日本での実現を目指して、努力してまいりました。さらに遺伝子治療に関連して新たな白血病が発症したというフランスの事例を受け、安全性の確認を徹底して行う体制をとりました。その結果、平成15年10月2日付で文部科学・厚生労働の両省から本治療法の承認が得られ、さらに厚生労働省より高度先進準備事業として認定を受けました。したがって、患者様に経済的なご負担をかけずに本治療を実施できるようになりました。このことは、造血幹細胞移植後に再発した白血病の患者様にとって、大きな福音になるものと確信しております。この治療法により、一人でも多くの白血病患者様が、健康を回復されますように強く願っております。

筑波大学附属病院 遺伝子細胞治療グループリーダー
筑波大学血液内科教授 長澤 俊郎
（筑波大学附属病院ホームページより）

遺伝子治療を受けた患者さんはその後、GVHDによると思われる皮膚所見と肝機能障害は改善しましたが、12月9日白血病のため死亡されました。死因は白血病細胞の臓器浸潤による腫瘍死と考えられております。これらの新治療方法が行われる事により多くの患者さんに多くの救命機会が生まれることを望みたいものです。（小田倉）

ドナー登録者30万人をめざして！

1月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

1月～3月の登録会予定

1月11日(火) 水戸市役所庁舎(時間9時00分～16時00分)

1月20日(木) 竜ヶ崎保健所(時間9時30分～15時00分)

1月31日(月) 結城市役所(時間9時00分～16時00分)

2月 1日(火) 陸上自衛隊古河駐屯地(時間10時00分～15時00分)

2月18日(金) 日本原子力研究所那珂研究所(時間9時00分～15時30分)

下記登録会予定は詳細が未定なため、詳しくは事務局までお問い合わせください。

3月17日(木) 下妻市役所(担当地区普及広報委員 福岡)

～速報～

日本骨髄バンクのドナー登録者数が20万人に到達

～目標ドナー登録30万人～

11月25日(木) ドナー登録者数は20万人に到達しました。また、17日(水)には骨髄移植例数も6000例へ達しています。ドナー登録者の方々をはじめ、関係者の皆さまのご理解とご尽力に心から感謝いたします。日本骨髄バンクは、白血病などの血液難病に苦しむ患者を救命するため、1991年12月に発足しました。以来、広く国民の皆様からドナー登録者を募集し、患者さんへの橋渡しに努めています。1992年1月6日のドナー登録受付開始から12年11ヶ月目の11月25日、ドナー登録者数は20万68人となりました。また骨髄移植例数も6000例に達しています(17日、6002例)。一方で、昨年登録された国内患者さんのうち、約4割は、いまだに移植を受けられていない現実があります。ひとりで多くの患者さんに移植の機会を提供するには、目標ドナー登録者数30万人達成を一日も早く実現しなければなりません。ドナー登録の機会を増やすことはもちろん、ドナー候補者が判明してから移植に至るまでの期間短縮など、さまざまな課題が残されています。

日本骨髄バンクは、ドナー登録者数が20万人に到達するまでのこの間、移植を受けられずお亡くなりになられた患者さんのことを決して忘れることなくすべての患者さんに骨髄提供できる日を目指し、全力で取り組んでまいります。(財団のプレスリリースより抜粋)

ドナー登録者30万人をめざして！

骨髄バンクドナー登録条件が3月より緩和予定

マスコミ等で報道されていますが、3月よりドナー登録条件が2点ほど緩和される予定です。ひとつ目は登録年齢条件が20歳から18歳に引き下げ（提供は20歳から）、二つ目は家族の同意が不要（提供時には必要）となります。なお登録年齢の上限についても55歳までの方向で検討中との事です。これにより20万人にとどまっていたドナー登録数も目標の30万人に近づくことが期待されます。

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義 00110-3-127575

加入者名義 骨髄バンクを支援するいばらきの会

16年度年会費納入のお願い

皆様からの会費は大切な運動資金です。有効に活用致します。また善意のご寄付もよろしくお願い申し上げます。 年会費 一口 2,000円 何口でも

心のごもったご寄付をありがとうございました。(2004.9.1 ~ 12.31)

佐藤ちい子 3,000円/新極真会茨城北支部 30,000円/玉里村商工会 10,000円

長谷川さつき 10,000円/井手義弘 9,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年2,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

日本骨髄バンク骨髄提供希望者(ドナー)登録者数 : 200,575人(県内3,800人)
骨髄移植希望者(患者数) : 2,732人(県内38人)
バンクを通じての移植例数 : 6,034例(県内移植数111例、県内採取数103例)
(2004年11月末現在)



編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年同様、充実した会報つくりががんばってまいりたいと思っておりますのでヨロシク願います。(小田倉孝夫)

特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会

骨髄バンクのお問い合わせは 0120-892-106、office@marrow.or.jp、http://www.marrow.or.jp まで

患者電話相談 白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

毎週土曜日 10:00 ~ 16:00 * 毎月第2・第4土曜日は血液専門医もご相談をうかがいます

ドナーサポートダイヤル0120-892-106月曜から金曜の午前10時から午後5時まで受け付けます

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ http://www.jmdp.or.jp

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

財団フリーダイヤル 0120-445-445 または ドナーズネット http://donorsnet.net まで

ドナー登録者30万人をめざして!